

## 2025年度 社会福祉法人 めやす箱 法人事業報告

### 1. 2025年度法人目標

法人理念を基に以下の法人目標を掲げ、事業運営に取り組んだ。

- ① サービスの質・支援力の向上
- ② 働きやすい環境作りの推進
- ③ 法人を担う人材の確保・定着・育成
- ④ 法人組織の活性化と経営基盤の強化
- ⑤ 地域共生社会の実現に向けた公益的取り組みの推進

### 2. 目標に対する取り組み

#### ① サービスの質・支援力の向上

- ・2025年度サービス満足度調査における意見・要望に対し法人・部門・事業所で検討を行い、改善に向けての取り組みを実施している。
- ・2025年度「支援サポートセンターめやすばこ・りーち」を新設し、法人全体の支援力・専門性の向上に取り組んでいる。
- ・利用者の権利擁護・自己実現を尊重した支援が行えるよう、虐待防止委員会を中心に研修・勉強会を実施し学びを深め、利用者主体の支援に取り組んでいる。
- ・サービスの質向上に向け、「児童発達支援センターさんぼるて」が、福祉サービス第三者評価を利用し、その結果を基に更なるサービスの質の向上に取り組んでいる。
- ・入所型サービスの体制整備に向けて、グループホームめやす箱Ⅳの開設準備を行っている。

#### ② 働きやすい環境づくりの推進

- ・「働き方の選択肢の拡大」「キャリアイメージ、将来設計を描ける仕組み作り」「持続的な法人運営」を主な目的として、外部コンサルタントと連携し、新たな人事考課・キャリアパス制度構築に向けて取り組みを行っている。
- ・ハラスメント防止に向けて2024年度作成した「ハラスメント定義」「ハラスメント委員会マニュアル」「ハラスメント対応マニュアル」を法人全職員に周知の上、運用を開始している。また、今年度新たにハラスメント委員会・外部相談受付窓口を設置し、ハラスメント防止に向け更なる体制整備を進めている。

#### ③ 法人を担う人材の確保・定着・育成

- ・SNS（インスタグラム）、法人ホームページを活用して、幅広い層の人材を募り、良質な人材の確保に向けての広報体制強化を進めている。（2025年度新卒採用者2名）

- ・「人間力・プロ意識」をテーマにした法人研修を実施し、法人の求める職員像を理解し、階層・役職に必要なスキルの向上を目的とした階層別研修を実施し、重層的な人材育成に取り組んでいる。

- ・2025年度離職者について、法人全体で29名（内訳：正職員と准職員合わせて18名、パート職員11名）、離職率11.4%と前年度から増加している。退職理由を検証した上で、今後法人全体で離職率の減少に向けて取り組みを行っていく。

- ・今後の人材確保に向けて、外国人やセカンドキャリア人材など、多様な福祉人材が活躍できるよう、求められる人事制度や働き方の在り方について検討を進める。

#### ④ 法人組織の活性化と経営基盤の強化

- ・経営面に関して、法人全体で2025年度当初予算を上回る結果を残すことができた。今後も事業展開・施設整備・職員の所得向上等に資金を投入している現状を法人全体で共有した上で、利用調整・コスト削減に努め安定的な事業運営を行う。

- ・法人本部体制を整備し、法人全体最適の視点での戦略的人事・事業展開・人材育成を行う組織体制への移行を図っている。

- ・管理職間の連携強化の一環として、2025年度から年間2回（4月、10月）法人管理者会議を開催し事業計画等の情報共有・ハラスメント対策に向けての意見交換等を行っている。

- ・近年の急速な社会情勢の変化や期待される地域社会のニーズに対して、法人の強み・弱みを分析した上で、中期的且つ戦略的視野に立った「第Ⅰ期法人中期経営計画」を策定している。

#### ⑤ 地域共生社会の実現に向けた公益的取り組みの推進

- ・地域における様々な福祉課題、生活課題に対して、地域貢献委員会を中心に関係機関等と連携・協働を図り公益的な取り組みを推進している。

- ・地域の福祉人材育成を目的に、社会福祉士・精神保健福祉士・保育士等の資格取得を目的とした実習生の受け入れを積極的に行った。

- ・倉敷市羽島で「めやすばこフェスタ」を開催している。フェス当日は地域住民・ご利用者・保護者・関係機関の方々等300名を超える参加があり、今後も継続的に開催する。

- ・倉敷市ひきこもり相談支援事業の委託に伴い、社会問題となっているひきこもり・不登校・孤独・孤立に対応する為、相談支援の充実や居場所作り、学びの場の創設・福祉・教育分野との連携等の取り組みを行っている。

- ・法人収益事業としてサポートスクール（通信制高校と連携した教育支援）・フリースペース事業（居場所支援）開始に向けて、プロジェクトチームが中心となり準備を進めている。

#### 【具体的な取り組み】

- 地域住民向け研修会の開催
- 生活困窮者への支援（フードバンク、フードドライブ、フードパントリーによる食材や生活物資の提供）
- 地域貢献イベント（めやすばこフェスタ）の開催

#### 3. 法人事業展開について

- ・2025年 4月「支援サポートセンターめやすばこ・リーチ」開設
- ・2025年 4月「日中一時支援めやすばこ・りんぐ」開設
- ・2025年 4月「倉敷市ひきこもり相談支援事業所」開設

#### 4. 法人委員会活動について

（※ 別紙「2025年度委員会活動報告書（案）」参照）

#### 5. 今後の課題・方針

今後も「安心」「安全」な事業所運営を最優先に、ご利用者や保護者のご要望等に耳を傾けサービスの質の向上を図るとともに、「利用者満足度」の更なる向上を目指して取り組みを行う。利用者一人ひとりの障害特性、生活の環境、本人の意思・希望を踏まえた支援の充実を図り、安心して地域生活を継続できるサービス提供体制の強化に努める。

福祉人材不足の社会情勢が継続する中、安定的な法人運営を行うため、人材の確保及び定着に向けての取り組みを重点的に取り組む。職員一人ひとりが安心して日々働くことができる職場環境づくりを推進するとともに、ICT化による業務効率化や働きやすい職場環境の整備、新たな人事考課・キャリアパス制度の適切な運用、メンタルヘルス対策・福利厚生制度の充実を図る。また、外部研修及び内部研修への参加機会を確保し、専門性や支援技術向上に努める。

経営面では、2025年度も各部門で適切な運営を行うことで、法人全体で当初予算を上回る業績を上げることができた。今後も管理職を中心とし、サービスの質の向上を図りつつ収益・稼働率の安定化に努め、運営基盤の安定に取り組んでいく。また、社会情勢や法人の状況を分析した上で、戦略的視野に立って策定した「第Ⅰ期法人中期経営計画」のもと、新規事業展開、建物老朽化に伴う施設整備・改修、財務基盤整備、次世代の経営層・管理職の育成等について重点的に取り組む。

社会福祉法人の責務として、地域住民、関係機関及び行政との連携を大切にしながら、今後も地域に開かれた法人運営を推進する。